

認知症の早期発見・診断・治療ってどうして大事なの？

- ① 今後の生活の準備ができる
本人や家族が病気と向き合い見通しを持つことで、介護サービスの利用や治療を受ける場合の希望など、今後、本人がどのように過ごしたいかを話し合い、将来の生活に備えることができます。
- ② 治療ができる
認知症を引き起こす病気には、早めに治療をすれば改善が可能なものもあります。早めに受診して、原因となっている病気の診断を受けることが大切です。
- ③ 相談する場所ができる
認知症の人の症状は、周囲の対応や環境も大きく影響してきます。周囲が本人に対して、どのように対応していくことが本人の安心に繋がるのか等、医療機関や支援者と一緒に考えていくことができます。

認知症の人への接し方はどんなことに気をつければいいのか？認知症になるとどのように感じるの？

自分がこれまでとは違うことにまず気づくのは、本人です。物忘れにより失敗が増え、「何かがおかしい」、「家族に迷惑をかけているのではないかと不安を感じるようになります。また、どうしていいかわからず混乱したり、イライラしたり、怒りっぽくなることもあります。



☆「認知症だから何もわからなくなる」「認知症の人はこうにちがいない」などと型にはまった接し方をするのはやめましょう。本人が「何を求め」、「どんなことを考え」、「何をしたいと思っているのか」、「どんなことができるのか」と思いやりながら、臨機応変な接し方を心がけましょう。

☆本人ができなくなったことに目を向けるのではなく、今できることを少しでも長く続けられるように、さりげない手助けを心がけましょう。

- 【認知症の人への接し方の“6つのポイント”】**
- ① ゆっくり一つずつ簡潔に伝える
 - ② 余裕をもって穏やかな気持ちで対応する
 - ③ 驚かせない、急がせない
 - ④ 間違いを正さない
 - ⑤ 失敗を責めたり、命令したりしない
 - ⑥ 自尊心を傷つけない



令和6年4月 作成
山ノ内町地域包括支援センター

山ノ内町 認知症ケアパス

認知症は、進行とともに認知機能が低下していきませんが、進行の仕方は、原因となる病気や人によって違いさまざまです。認知症ケアパスには、地域の介護、福祉サービスを紹介しています。認知症になっても、住み慣れたわが家、わが町で必要かつ適切なサポートを受けながら暮らしていけるように、ご活用ください。



認知症とはさまざまな原因により脳の変化がおこり、それまでできていたことができなくなり、生活に支障をきたした状態です。認知症になることは特別なことではありません。誰もが人生の中で認知症になる可能性があります。苦しさや不安をひとりやご家族で抱え込まずに、まずは相談してみませんか。

まずは相談してみましょう
どこに相談したらいいか迷ったらまずはこちらへ

☎ 0269-33-8411

山ノ内町役場 健康福祉課 介護支援係
(山ノ内町地域包括支援センター)

介護保険サービス、地域の支援や居場所、介護者支援等の紹介を行います。認知症の方やご家族だけでなく、近所に住んでいる方で気になる方の相談など幅広く受け付けていますので、お気軽にご相談ください。

かかりつけ医・専門医

北信総合病院 認知症疾患医療センター
認知症の専門医療機関として指定を受けている病院です。
【物忘れ外来】 ※完全予約制。かかりつけ医からの紹介が必要です
☎ 0269-22-2151(代)
問い合わせ先: 地域医療連携課
【専門医療相談窓口】
☎ 0269-23-4310
受付時間 平日 9:00~17:00








長野県内の主な相談窓口

認知症コールセンター ☎ 0268-23-7830 受付時間 午後1時~午後8時	認知症の人と家族の会 長野県支部 ☎ 026-293-0379 受付時間 午前9時~12時	若年性認知症コールセンター(国) ☎ 0800-100-2707 受付時間 午前10時~午後3時
---	--	---

〈認知症の症状や支援のポイント・利用できるサービスなど〉

*認知症の経過によって変化していく症状や状態で、日々の生活を送るために必要な医療や介護などの支援は異なります。その人に合わせて適切な支援を考えましょう。

※認知症の進行には個人差があります。今後の経過により変化する症状や状態の目安としてください。

認知症の経過	認知症かもしれない ※もの忘れは多いが、自立して生活できる	見守りがあれば生活は自立できる	生活を送るための支援が必要	常に介護が必要
本人の様子（例）	<ul style="list-style-type: none"> • ものがとがおっくうになる • ものや人物の名前がでてこない • 新しいことがなかなか覚えられない • 好きだったことに興味を示さなくなる • 置き忘れや、しまい忘れが増える 	<ul style="list-style-type: none"> • 整理整頓ができなくなる • 日にち、曜日がわからなくなる • 薬の飲み忘れや、火の消し忘れなど増える • 同じ物を買ってくる • 計算が苦手になりなんでもお札で支払う • 同じことを何度も言ったり聞いたりする 	<ul style="list-style-type: none"> • 「ものを盗まれた」と言うなど疑い深く怒りっぽくなる。 • 慣れているはずの道に迷い、家に戻れないことがある。 • 季節にあった服選びや、着替えがうまくできなくなる。食事、トイレなどがうまくできなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 言葉によるコミュニケーションが難しくなる。 • 近親者の顔や人間関係がわからなくなる • 日常生活（着替えや食事、トイレなど）が、サポートがないと難しくなる。 
家族や介護者などの対応のポイント	<ul style="list-style-type: none"> • 心配なことや気になることがあれば年齢のせいにならず、早めにかかりつけ医や<u>地域包括支援センター</u>に相談する • 家庭内での役割を持ち継続できるようにする • 今後の生活について本人と家族で話し合っておく 	<ul style="list-style-type: none"> • 訴えを否定しない • 本人ができないことを責めずに、本人の気持ちに寄り添いできない部分をサポートする • 環境の急激な変化を避け、安心できる環境を整える • 医療や介護サービスを上手に利用する • 介護者自身の健康管理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 地域の理解を得るため協力者を増やす（民生委員や隣近所に知らせる・隠さず理解してもらおう） • 医療や介護サービスを積極的に利用する • 介護者自身の健康管理を行う 	<ul style="list-style-type: none"> • 施設入所など本人が安心できる生活環境を考える • どのような終末期を迎えるか本人に寄り添いながら家族間でよく話し合っておく
医療・健康・相談	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特定健康診査・健康診査 ■ 相談や認知症の診断：かかりつけ医、認知症疾患医療センターなど ■ 身近な相談の場へ相談する：山ノ内町地域包括支援センター（認知症支援専門員）、認知症個別相談会（年3回実施）、介護支援専門員（ケアマネジャー） 			
他者との交流 進行予防	<ul style="list-style-type: none"> ■ 認知症予防・認知症について学ぶ：認知症サポーター養成講座 ■ 運動や趣味などの活動：チャレンジシニア、脳元気教室、ハッピー体操教室など ■ 身近な交流の場にでかける：生きがいカフェ、各地区で行っているサロン、老人クラブ、わくわく商店街など 			
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地域での見守りや助け合い：民生児童委員、警察 ■ 在宅高齢者福祉サービス：配食サービス、高齢者見守り支援システム（見守り SOS ネットワーク事業） 			
介護保険	<ul style="list-style-type: none"> ■ ホームヘルプ、デイサービス、デイケア、ショートステイ、訪問看護、訪問リハビリ、福祉用具購入・貸与、住宅改修など 			
住まい (利用できる 住宅・施設等)	<ul style="list-style-type: none"> ■ サービス付き高齢者向け住宅、有料老人ホーム、ケアハウスなど 	<ul style="list-style-type: none"> ■ グループホーム、老人保健施設など 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 特別養護老人ホームなど 	
権利擁護	<ul style="list-style-type: none"> ■ お金の管理や財産・契約：エンディングノートの作成、日常生活自立支援事業、成年後見制度、消費生活センター 			